

平成 22 (2010) 年度

沖縄県海外県系人ホームステイ受入事業冬期

(「第 5 回世界のウチナンチュ大会プレ・イヤー イベント」ヴァージョン)

報告書



沖縄県観光商工部交流推進課

(受託) 沖縄NGOセンター

沖縄県海外県系人ホームステイ受入事業冬期
(「第5回世界のウチナンチュ大会プレ・イヤー イベント」バージョン)
報告

1. 事業概要・経過1
2. 参加者プロフィール2
3. 全日程プログラム4
4. 参加者感想5
5. 参加者スピーチ8
6. 参加者アンケート11
7. ホストファミリーアンケート13
8. お世話になったみなさま15
9. 思い出のアルバム16
10. 編集後記20

はじめに

ウチナーンチュは、20世紀初頭、南北アメリカ大陸を中心に世界各地へ雄飛し、移住者とその子弟は各界各層で活躍しております。沖縄県では、この世界に広がるウチナーンチュのネットワークを有効に活かし、ホームステイを通して、海外と県内のウチナーンチュの若い世代の双方向の交流を推進する「ホストファミリーバンク推進事業」を実施しております。

これは、2006年10月に開催された、「第4回世界のウチナーンチュ大会」の際の、海外県人会・民間大使会議において、「ホストファミリーバンク事業」の推進が決議されたことによるものです。

現在、海外の沖縄県系人社会では、時代の変遷と世代を重ねるにつれ母県沖縄に対する認識と関心が薄れ、次代を担う人材の育成が課題となっており、他方県内の若い世代には、沖縄の近・現代史の重要な要素を成す海外移民の歴史に学びこれを受け継いでいくことが求められていることが背景にあります。

今年度は、「第5回世界のウチナーンチュ大会」を来年度に控えており、県民の気運を盛り上げる目的で、年度の後半に2回目の「海外県系人子弟ホームステイ受入事業」を実施しました。

大会のプレイヤーイベントとして位置付けた今回の受入事業には、アルゼンチンから3名とアメリカから2名の若者が参加し、南は糸満市から北は沖縄市までの合わせて7世帯のホストファミリーに彼らを受け入れていただきました。

参加者には、自身の先祖や彼らの移民の経緯などについて、学校訪問時等に発表してもらい、県民へ移民社会の歴史を知っていただくとともに、大会へより興味を示してもらえよう役割を担っていただきました。

その効果は、これから取り組まれる大会のイベントや大会そのものに現れてくるものだと確信しております。

そして、参加した5名の皆さんには、交流を通して得た県民との関係を一過性のものにするのではなく、相互のコミュニケーションを保ちつつ友好の絆を深め、今後の国際交流、協力の担い手として活躍していくことを期待しています。

沖縄県としてもこの度の「海外県系人子弟ホームステイ受入事業」に参加した皆さんとホストファミリーの皆様から寄せられた御意見を踏まえつつ、事業の成果を検証し、更なる内容の充実を期して参りたいと思います。関係者の皆様には、本県の国際交流・協力事業の推進に尚一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

平成 23(2011)年2月

沖縄県観光商工部交流推進課
課長 瀬川 義朗

事業概要・経過

沖縄県海外県系人ホームステイ受入事業

本プログラムは、海外県系人子弟等が沖縄県内におけるホームステイを通して、県民との交流や沖縄の歴史・文化・自然などの体験学習、学校への体験入学、ルーツの地域との交流により、母県・沖縄に対する理解と絆を深めるとともに、海外県系人社会の発展とウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献することを目的としています。

■実施期間 2011年1月26日(水)～2011年2月5日(土) 10泊11日

■参加者受入人数:5名

- ・ 玉城 フェデリコ(26歳/アルゼンチン)
- ・ 比嘉 イグナシオ(19歳/アルゼンチン)
- ・ 新城 セバスチャン(18歳/アルゼンチン)
- ・ エミリー ロング(19歳/アメリカ)
- ・ ジェイク キャンプ(13歳/アメリカ)

■プログラム随行者

岸本 佳子 (沖縄NGOセンター)
宮城 康一郎 (沖縄県観光商工部交流推進課)


■事業実施機関


特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター
〒901-2211 沖縄県 宜野湾市宜野湾 3-23-52 1F
電話 098-892-4758
FAX 098-941-6812


■事業経過

日程	内容	場所・その他
10月12日	参加者募集開始(受入)	
11月10日	応募〆切(受入)	
11月25日	受入ホストファミリー募集案内開始	
11月25日	参加者決定(受入)	
12月24日、1月6日	受入ホストファミリー決定	
1月14日	ホストファミリー説明会(受入)	沖縄県庁
1月26日～2月4日	受入事業 実施期間	
2月4日	受入プログラム終了式	沖縄キリスト教学院大学


参加者プロフィール


氏名・出身国	玉城 フェデリコ (アルゼンチン)	
生年月日	1984年11月28日(26歳)	
在学中の学校	Saul.A.Taborda(料理専門学校)卒業	
親(親族)の出身地	本部町	
趣味・特技	サッカー、太鼓、料理、水泳	
ホームステイで期待すること	沖縄の慣習や文化、民謡や料理なども実際にこの目で見てみたい。日本とアルゼンチンの交流や情報交換のお手伝いも積極的に行いたい。	

氏名・出身国	比嘉 イグナシオ (アルゼンチン)	
生年月日	1991年2月16日(19歳)	
在学中の学校	Universidad Tecnologia Nacional (大学)	
親(親族)の出身地	北中城村	
趣味・特技	英語、プラモデル	
ホームステイで期待すること	現地の人々と触れ合い、コミュニケーションを深めることをしたい。沖縄の暮らしを体験し、ホストファミリーともたくさんお話し、日本語の練習も楽しみ。	

氏名・出身国	新城 セバスチャン (アルゼンチン)	
生年月日	1992年12月3日(18歳)	
在学中の学校	アンヘル・デリア高校(2年生)	
親(親族)の出身地	うるま市与那城饒辺	
趣味・特技	音楽、ギター	
ホームステイで期待すること	うちなーぐちなど日本にある方言を学びたい。日本の文化や習慣を理解し、日本の学生たちと交流を深めていきたい。沖縄の生の演奏に参加し、またアルゼンチンの伝統音楽をギターの演奏で紹介したい。	

参加者プロフィール

氏名・出身国	エミリー ロング (アメリカ)	
生年月日	1991年6月5日(19歳)	
在学中の学校	サウスフロリダ大学	
親(親族)の出身地	沖縄市	
趣味・特技	エイサー、ダンス、スポーツ、カラオケ、ビーチに行くこと	
ホームステイで期待すること	沖縄の文化、先祖伝来の遺産を理解したい。 ホームステイの経験を通して、自分自身をより理解したい。	

氏名・出身国	ジェイク キャンプ (アメリカ)	
生年月日	1997年8月26日(13歳)	
在学中の学校	ミチエルカウンター中学校	
親(親族)の出身地	豊見城市高嶺	
趣味・特技	スケートボーディング、フットボール、外国語を学ぶ事	
ホームステイで期待すること	美しい島の歴史、人々の暮らしの知識を得たい。沖縄の10代の少年、少女たちと友だちになれることが楽しみ。	

■ホストファミリー名簿

No.	ホストファミリー名	居住地	ホームステイ者
1	伊藤ファミリー	糸満市	玉城 フェデリコ
2	金城ファミリー	糸満市	比嘉 イグナシオ
3	藤原ファミリー	北中城村	
4	野添ファミリー	沖縄市	新城 セバスチャン
5	新垣ファミリー	那覇市	エミリー ロング
6	宮城ファミリー	南城市	
7	伊波ファミリー	那覇市	ジェイク キャンプ

全日程プログラム

2010年1月26日(水)～2月5日(土)

月日	時間	内容	場所	担当
1月26日	17:00	エミリー ロング	県庁	ホストファミリー
	21:05	新城セバスチャン、比嘉イグナシオ	空港	県、ONC
(水)	22:45	ジェイク キャンプ、玉城フェデリコ	"	"
1日目	17:30～19:00	ゲストの送り	県庁→各ホームステイ先	ホストファミリー
1月27日	10:30～12:00	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(木)	12:00～13:00	歓迎昼食会	レインボーホテル	県、ONC
	13:00～15:00	参加者オリエンテーション	県庁	"
	15:00～15:30	ウチナーンチュ大会事務局訪問	ウチナーンチュ大会事務局	"
	15:30～16:00	参事監表敬訪問	参事監室	"
	15:30～17:30	国際通り、公設市場、やちむん通り散策	国際通り、公設市場、やちむん通り	"
2日目	17:30～19:00	ゲストの送り	やちむん通り→各ホームステイ先	"
1月28日	8:30	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(金)	8:30～9:30	県庁→北中城高校(公用車)		県、ONC
	9:30～13:30	北中城高等学校訪問・昼食	北中城高等学校	県、ONC、北中城高校
	13:30～14:00	北中城高校		県、ONC
	14:00～16:00	うちなーぐち講座&交流	沖縄NGOセンター 事務所	沖縄語普及協議会
3日目	17:30～19:00	ゲストの送り	ONC→各ホームステイ先	県
1月29日				
(土)	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など	ホストファミリー
4日目				
1月30日				
(日)	終日	ホストファミリーと共に過ごす	ホストファミリー宅など	ホストファミリー
5日目				
1月31日	8:00～8:30	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(月)	8:30～10:30	県庁→本部港		県、ONC
	11:00～11:30	本部発→伊江島	伊江島各地	県、ONC
6日目		家裏体験、ホームステイ	"	伊江島観光協会
2月1日	9:00～9:30	反戦平和資料館見学	反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」	伊江島観光協会
(火)	9:30～12:00	観光、戦跡めぐり	伊江島各地	"
	13:00～13:30	伊江島発→本部		県、ONC
	13:30～14:30	本部港→みかんの里		"
	14:30～16:00	みかんの里 みかん狩り	本部町伊豆味みかんの里	"
7日目	17:30～19:00	ゲストの送り	みかんの里→各ホームステイ先	"
2月2日	8:30～9:00	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(水)	9:00～10:00	県庁→マキヨ屋嘉田(公用車)		県、ONC
	10:00～12:00	そば作り	マキヨ屋嘉田(恩納村)	宇地原さん、仲西さん
	12:00～13:00	昼食(作ったそばを食べる)	"	"
	13:00～16:00	海歩き	万座毛、亀甲墓、アダンのトンネル	"
8日目	17:30～19:00	ゲストの送り	恩納村→各ホームステイ先	県、ONC
2月3日	8:00	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(木)	8:00～9:00	県庁→与勝高校		
	9:00～13:30	与勝高等学校訪問・昼食	与勝高等学校、与勝緑が丘中学校	与勝高、緑が丘中
	13:30～14:00	与勝高校→うるま市洲崎		
	14:00～16:00	マングローブEEクラブ	うるま市洲崎	マングローブEEクラブ
9日目	17:30～19:00	ゲストの送り	うるま市→各ホームステイ先	県、ONC
2月4日	8:00～8:30	ゲスト県庁集合(公共バス等利用)	各ホームステイ先→県庁	ホストファミリー
(金)	8:30～9:00	県庁→沖尚(公用車)		県、ONC
	9:00～13:30	沖縄尚学高等学校訪問	沖縄尚学高等学校	沖縄尚学高等学校
	14:05～15:00	タイフーンfm(コミュニティラジオ)	タイフーンfm	タイフーンfm
	15:00～15:30	タイフーンfm→キリ学		
	15:30～	大学見学・修了式準備	沖縄キリスト教学院大学	県、ONC
	18:30～20:30	修了式、フェアイル・パーティー	"	"
10日目	20:30～	ゲストの送り(ホストファミリー)	キリ学→各ホームステイ先	ホストファミリー
2月5日				
(土)		参加者帰国または親戚宅へ	那覇空港	県、ONC
11日目		プログラム終了		ホストファミリー

参加者感想

玉城 フェデリコ(26歳/アルゼンチン)

Desde que pisé suelo Okinawense me sentí cómodo con la gente que vive acá ya que son amables y muy alegres. Todo está muy limpio. Conocí a mucha gente y a todos quiero recordar. Intenté de participar lo más que pude en las actividades que nos dieron en el programa, no sé qué hubiera pasado si hablara más en japonés XD. En cada descripción del lugar que visitábamos logré entender porque me lo traducían en castellano, agradezco por eso. Creo que pude adaptarme a las costumbres okinawenses como por ejemplo sacarse las zapatillas al entrar a la casa, a usar ohashi en las comidas y porque no, a comer las comidas okinawenses, también dormir y despertar en los horarios que me indicaba la Hostfamily. Cada vez que conozco más a Okinawa me dan más ganas de vivir en esta isla. Muy bueno el programa, ojalá más chicos jóvenes puedan venir a conocer sus raíces. Gracias por todo!!!



沖縄の人はとても親切で明るく、沖縄に着いた時からとても安心して過ごすことができました。

すべてがきれいでした。大勢の友だちと出会い、みんなのことを大切にしたいと思います。このプログラムの中で与えられたすべての活動に頑張って参加しましたが、日本語がもっと話せたらよかったと思います。すべての見学先ではスペイン語の通訳を入れていただいて感謝しています。家に上がる時靴を脱いだり、お箸で食べたり、沖縄料理を口にしたり、そしてホストファミリー先で決められた起床時間、就寝時間をまもっていたから沖縄での生活になじめたと思います。沖縄の文化を知れば知るほど、この島に住みたくになりました。このプログラムは素晴らしくて、大勢の若者が自分のルーツを知るために参加できればと思います。色々ありがとうございました。

新城 セバスチャン(18歳/アルゼンチン)

I'm very thankful at the Kenchou for giving us such an opportunity, also, a special mention to the staff, Miyagi san, Gloria san, Yoshiko san, Naomi san, for being so kind with us. I'll be more than decided to help to retribute the favor to the prefecture, whenever is needed. I hope more people from outside the island come to Naha/Okinawa with help of these kind of programs. It's surely a good opportunity to let them know about their roots, as I was never interested in this kind of stuff before. Thanks.



県庁でこのような機会を私達に与えてくれたことにとても感謝しています。特に、親切にしてくれたスタッフの宮城さん、グロリアさん、佳子さん、直美さんに感謝しています。いつでも必要があれば、沖縄県へ恩返しをしたいと強く決心しています。私はこのようなプログラムの支援で、もっと多くの人々が島の外から那覇、沖縄へ来てほしいと願っています。私も以前は全く関心なかったように、それは彼らが自身のルーツを知るためのすばらしい機会に必ずなります。ありがとうございました。

比嘉 イグナシオ(19歳/アルゼンチン)

My impression of this program is a really positive one. It gave me the chance to experience and learn a lot of new things. Meeting the people of the Kenchou let me see how different are people from Okinawa. Visiting the school allowed me to experience the Japanese school life. Also travelling to IE jima shared me about the war that my grandfather experienced. Finally, picking tankans, preparing soba, and walking through the beach made me realize how big and interesting in Okinawa's culture and nature. But most importantly, the fact that I'm staying with an Okinawan family allowed me to see how is a family here, to practice my Japanese and it will remain as an experience I'll never forget. There are still a lot of things to learn from Okinawa. But I'm sure it will keep surprising me as new. The last two days of the program were really fun, specially the farewell party. Going to the mangroves, to the school and to the radio were really a lot of fun. I feel sad that the program ending, but I will someday come back and enjoy again the Okinawan culture.



このプログラムは本当に素晴らしかったです。このプログラムは、新しい多くのことを経験し、学ぶ機会を与えてくれました。県庁の人々と出会うことは、沖縄の人々とのように違うのかを気づかせてくれ、学校訪問では、日本の学校生活を体験しました。また、伊江島への旅行では、私の祖父が体験した戦争のことについて教えてくれました。最後には、タンカン狩り、そば作り、そしてビーチを歩きました。これらのことは沖縄の自然と文化がどれほど重要で、興味深いものかを実感させてくれました。けれども、もっとも大切なことは、沖縄の家族と過ごしたことで、家族のあり方について気づいたこと、日本語の練習をしたことです。そのことは、決して忘れることのできない経験として、ずっと残っていくでしょう。沖縄から学ぶことはまだまだたくさんあります。これからも、新しいことのように私を驚かせ続けるだろうと確信しています。プログラムの最後の二日間は本当に楽しく、特にフェアエルパーティーが楽しかったです。マングローブへ行った事、学校やラジオへ行ったこともとても楽しかったです。私は、このプログラムが終わってしまうことが、とても悲しいです。でも、いつかまた戻ってきて、沖縄の文化を楽しみたいと思います。

エミリー ロング(19歳/アメリカ)

沖縄に来る前は、私はちょっと不安でした。空港で飛行機にのって、もんだいがある、私は何をすればいいかわかりませんでした。でも沖縄に来て、このプログラムがはじまって、ふあんな事はありませんでした。このプログラムはとても楽しくて、本当によかったです。このプログラムで毎日、沖縄の色々な事を習いました。たとえば、一日ウチナー口をならって、別の日には伊江島に行って伊江島の歴史を習いました。ちねんさんの家にとまって、初めて畑をしました。たぶん伊江島に行けなかったら、私が畑をすることはなかったと思います。そして、高校へ行って、はじめて日本の授業をみました。みんなリラックスした雰囲気フレンドリーでした。それで、ホストファミリーと色々なことをしました。新垣さんファミリーと玉泉洞に行きました。とても楽しかったです。エイサーを見て、鍾乳洞にも入りました。その後、首里城にも行きました。日本のスタイルの城は初めてです。とてもすばらしかったです。そして、宮城さんファミリーと、たくさんおいしい沖縄料理を食べました。それで大きな家族だったので、みんなの名前を覚えるために頭の中で10回繰り返していました。私のホストファミリーのみなさん、私を家族の一員として迎え入れてくれてありがとうございます。そして、私のために色々してくれてありがとうございました。また会いましょう。そして、県庁のみなさん、沖縄に来て、沖縄の文化について学ぶ機会を与えてくれてありがとうございます。最高の経験でした。また何度でも沖縄に戻って来たいと思います。にふえーで一びる。



ジェイク キャンプ(13歳/アメリカ)

My experiences in Okinawa have been the best. I have seen marvelous artifacts and beautiful sites. I have become a good friend with everyone in the group, in my opinion Okinawa is the best place to be. When I arrived I was not scared or homesick as a matter of fact I felt like I was at home, the Okinawa side of my life took control. When I was a little kid I have always dreamed of coming to see where my family is from but who would ever think I would get the chance the next day. That is how I feel about this experience.



私の沖縄での経験はとてもすばらしいものでした。素晴らしい工芸品や美しい景色を見たりしました。グループのみんなといふ友だちにもなりました。私の意見としては、沖縄は住む場所として最高のところだと思います。私は沖縄に着いたとき、怖くもホームシックにもなりません。私はお家にいるような気持ちで、自分の中にある沖縄の部分が出てきました。私は小さい時、いつも家族の出身地に来てみたいと夢見ていましたが、実際に沖縄に来れたことが信じられませんでした。これらが、このプログラムに対しての今の気持ちです

沖縄県海外県系人ホームステイ受入事業冬期では、県内の高校 3 校へ学校訪問を実施しました。学校訪問では、クラスで参加者それぞれが自分のルーツや生活、家族や親戚の移民の話、移民先での暮らしのプレゼンテーションを行いました。参加者一人ひとりのプレゼンテーションを紹介します。

◆玉城 フェデリコ

アルゼンチン、コルドバ在住の玉城フェデリコと申します。一年前にコルドバ日本人教会で日本語を習い始め、現在も楽しく続けています。去年料理専門学校を卒業しましたが、ただ楽しいだけでなく実に多くのことを学ぶことができ大変勉強になりました。私は以前から日本に大変興味があり、祖父の生まれ故郷でもある沖縄の地を訪れ、自分のルーツでもある沖縄の慣習や文化、民謡や料理なども実際にこの目で見てみたいと願っていました。また日本とアルゼンチンの交流や情報交換のお手伝いも積極的にしていきたいと思っています。毎週日曜に日系の若いメンバーと Chisyo-en という日本人会専用運動場でスポーツをしたり、バーベキューなどをしています。この度は私のスピーチを聞いていただきまして誠にありがとうございました。

◆新城 セバスチャン

私は 18 歳で、アルゼンチンのブエノス・アイレスで生まれ育ちました。私は 4 世です。(4 世とは、4 代目という意味だと捉えています)。そして、首都に両親と義妹姉、祖母と暮らしています。私は日本語が全く理解できません(ほんの少しなら分かります)。でも英語は十分に理解ができます。もちろん、母国語のスペイン語もです。私の父のルーツは沖縄で、母は長野出身で、2 人とも 3 世です。私の一番古い先祖は、アラグスク マスキチと言ひ、1903 年に農家の家庭で生まれました。彼は 1919 年に経済的な理由でアルゼンチンへ農家として移民しました。17 歳の時でした。彼は後に、アルゼンチンの一つの州に落ち着き、バーを持ち大きな成功をおさめます。彼の息子カオルが一人だけ、沖縄へ戻りますが、第二次世界大戦で亡くなってしまいました。アルゼンチンの教育システムは、小学校が 1 年から 6 年まで、高校が同様に 6 年間ですが、それよりも長くあるいは短くかかることもあります。私たちが利用している高校のシステムはポリモダルと呼ばれ、生徒が選んだキャリアや職業をベースにして多様な選択ができるものです。でも、アルゼンチンはただスペインと同じシステムを導入しただけだったため、このシステムは失敗に終わりました。現在は、ポリモダルシステムはなく、私の世代が影響を受けた最後の世代でした。アルゼンチンには一つだけ公立の日本人学校があり、“ニチア学院”と呼ばれています。この学校は日本語を第 2 外国語としている唯一の学校です。その他の一般的な学校では私のように英語を第 2 言語としています。私の家族には日本語を話せる人はいませんが、食事などいくつかの文化習慣は守っています。何人かのいとこと祖父母は日本語をよく理解できます。アルゼンチンには沖縄センター(O. C. A)があります。メインの建物には、武術や折り紙など伝統文化やスポーツに関するすべてのものが展示されています。Bon Odorisという一年に 2~3 回開催されるイベントもあり、また、多くの日本語学校がアルゼンチンにはあります。アルゼンチンにはアニメ・コンベンションもあり、また J-ROCK などのジャパニーズ・ミュージックのファンもたくさんいます。首都には日本風のレストランも多く、ほとんどは寿司バーです。

◆エミリー ロング

初めまして私は麻理子、年は19歳です。今回皆さんと話ができる機会ができて光栄です。私は現在アメリカ・フロリダのタンパベイで家族みんなで暮らしています。私の母が沖縄市出身で父はアメリカのノース・カロライナ出身です。父は元アメリカ空軍所属で、沖縄勤務だった時に母と知り合い今にいたっています。兄、私、妹と両親の家族構成ですが、兄はすでに結婚し、軍人の奥さんを持つ兄も又今は沖縄で暮らしています。私は沖縄で生まれ3歳の頃父の仕事の影響でイギリスに転勤しました。でも小さかった私にはあまりイギリスでの記憶はありません。イギリスに3年滞在してからアメリカのミズーリ州へ引越し2年間住みました。ミズーリ州に住んだ場所は小さくて静かな街でした。ここでは雪で遊んだ事と庭にいたりス達に餌をやって遊んだ事くらいしか覚えていません。私が9歳の時アメリカ、ミズーリから沖縄に転勤しました。その時私と妹はアメリカン・スクールでそろばんを習いはじめ妹は選手権で1番になりました。あと私と妹はエイサーのメンバーとして色んなところでエイサーを踊る機会がありました。それから七五三のお祝いに参加して、その時に着物を初めて着ることもでき、嬉しかった記憶もあります。沖縄でたくさんの経験をしたにもかかわらず私はまだ沖縄人を先祖に持つ自分が沖縄を良く分からずにいます。お祝いの時やお祭り、お墓参り、沖縄の色々な行事に参加してはいましたが、そのころの幼い私には目の前にある沖縄の文化、先祖伝来の遺産を学ぶ事に興味などなく、せっかくの機会を無駄にしまいました。沖縄での滞在は4年間だけで終わり私達は父の仕事のためドイツへ引越しました。ドイツに住む機会に恵まれたことは本当にラッキーだと思っています。それは美しいドイツ国内だけではなくその周辺の国々へも行く事ができたからです。パリ、フランス、それからギリシャ、スペインへ行く機会にも恵まれました。スペインの後はローマとピザ、イタリア、オランダを訪れました。ドイツに住みながらヨーロッパ各地を旅行して過ごした3年後、私達はまた引越す事になりました。今回の引越は今までと違い父がアメリカ空軍から退職をするので今後どこに永住するのかを決めなければなりません。そして決めたのが現在住むフロリダのタンパベイです。タンパベイは大きな湾に囲まれた数々の街が集まっていて、私達が住む街はターボンスプリングスと言います。ここはギリシャからの移民が多く集まる街として知られ、1900年代初め海のそこから採れるスポンジが目的で移り住んできたギリシャ移民により作られた街です。私はターボンスプリングス高校を卒業しました。高校卒業した私はサウスフロリダ大学へ入学し現在2年生です。学校では様々なイベントがあります。最近ではスポーツイベントとインターナショナル秋祭りがありました。私の大学には色々な国からたくさんの留学生がきていて、アフガニスタン、イスラエル、中国、韓国そして日本から来ています。日本からの留学生は関西外国語大学で、姉妹校になっています。私は大学で日本語クラブに入っていて、そのクラブは日本の文化や日本に興味がある生徒が集まっています。クラブではミーティングがあり日本語や日本の文化を教わっています。近く、日本語クラブの宴会があり、その宴会で私の母が入っているタンパベイ沖縄県人会の人たちが踊りと太鼓を披露してくれます。もし私が今回沖縄にホームステイしてなかった、私も沖縄県人会の踊りのメンバーとしてこの宴会に参加していました。私が住んでいるところは海に囲まれているので皆海に行っていて楽しんでいます。私は中学、高校でバレーボールをやっていたので、海に行くとビーチバレーをしています。もちろん泳ぐのも大好きです。私の父が米軍人だったおかげで私は世界中の国々を訪問する機会に恵まれたことがとても lucky だったと思います。その中でもやはり沖縄は私が大好きな場所です。これからも私達ウチナンチュは素晴らしい沖縄の文化、人々の歴史を広めて行く事に期待します。このホームステイの経験を通して望むことは沖縄の文化遺産をより良く理解すること、最終的に自分自身を良く知ることが出来るといいなと思います。そして何より私が私の文化遺産を肌で感じる機会を与えられた事を光栄に思い、沖縄への道のりを可能にするために応援してくれた人たちにとても感謝しています。私のホームステイしている家族の皆さんも素晴らしい人たちです。最後に私はこのプログラムに参加でき、沖縄の素晴らしい文化遺産の理解を深めるためにこのような機会をあたえられた事をとても幸運に思っています。そして沖縄の人々、深く根付いた伝統を持つ素晴らしい島、私とその島の出身で沖縄人の血統であることを誇りに思い、ここで学んだことそして沖縄文化を多くの人に広げていくことを光栄に思います。

◆比嘉 イグナシオ

私の家族が沖縄から外国へ行くと思ったのは、今の生活よりより良い生活をもとめて、家族のために働いてお金をためるためでした。私の家族の歴史は 1912 年ブラジルへ曾祖父達に移住したときから始まります。3 年間ブラジルのサントスの農場で働いていましたが、アルゼンチンの方がすべて良いと聞きアルゼンチンに行きました。ブエノスアイレスで運動靴の工場で勤めてお金をため、14 年後にコルドバ州のリオクワルトと言う町で喫茶店カフェー日本を開きました。そこで、10 人の子どもに恵まれました。9 人目の子どもが私のおじいちゃんに比嘉ファンしんしょうといいます。1938 年 10 歳のときに日本語の勉強をするために日本へ送られましたが、戦争が始まったので叔母さんの山田ケイコと九州へ避難しました。戦争が終わって 1950 年にアルゼンチンに帰ってきました。兵役を終わってからブエノスアイレスに住み沖連の青年部の部長をしました。その後おばあさんと知り合って結婚して二人の男の子ファンカルロスとダニエルが生まれました。私のお父さんはファンカルロスです。私はおじいちゃんとお父さんの名前をもらってファン・イグナシオといいます。日本語の名前も持っています。お母さんの方のおじいちゃんの名前幸男からもらって英幸です。おじいちゃんのファンは 82 歳、おばあちゃんのネリーは 73 歳で今も元気に仕事をしています。私は日系の 4 世になりますので、沖縄のことはあまり知りませんが、でも前からずっと家族のルーツを知りたいと思っていましたから日本語の勉強もしていて、今度のイベントに参加して沖縄の事をもっと知りたいと思っています。みなさんが経験された沖縄であった戦争の事も本とか写真じゃなくて自分の目で確かめたいと思っています。今回の経験で私の昔の家族たちとのつながり続けて行きたいと思っています。

◆ジェイク キャンプ

私の名前はジェイク・キャンプです。私はジョージア州、アルバニーで 1997 年 8 月 26 日に生まれました。今日は、私が住んでいる場所の写真や過去の写真は持ってきていません。私は生まれてからずっとジョージア州で過ごしてきました。今回初めてジョージア州、アメリカから出ました。私は沖縄についたとき、気分悪くも、不安にもならずお家にいるような気分でした。私は 13 歳でとても素敵な家族がいます。日本人の祖母、アメリカ人の祖父、4 人の叔父、叔母、母、5 人の兄弟です。私がこの中に父を入れなかったのは、4 年前に仕事に亡くなり、3 年が経つからです。私は 4 分の 1 が日本人です。なぜなら父が日本人で母はアメリカ人だからです。趣味は、アメリカン・フットボールをすること、ダートバイクに乗ること、スケートボーディング、ギターを弾くこと、自由に走ることです。私の祖父の兄弟はここ、沖縄に住んでいて、彼女の姪は大阪に住んでいます。ジョージア州では、私は自分のことは自分でします。私はいつも一人でお家にいることが多いです。母はいつも働いていて、兄はいつも友だちと外に出ているからです。私の出身地では、Atlanta Falcons、Georgia Bulldogs、Atlanta Braves が有名です。これが、私の人生の中で見て来たこと、知ってきたことのほとんどです。

参加者アンケート

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください(良かった点、改善すべき点、その他など)

- ・ 私の家族のルーツを知るすばらしい機会でした。家族と一緒に過ごすことは好きだったし、彼らと一緒に住むことができればと思います。改善点はないです。
- ・ このプログラムの全部が好きです。たくさんの沖縄の歴史、伝統文化をならって、とても楽しかったです。改善することはないと思います。
- ・ さまざまな日系人や子孫を沖縄と彼らのルーツをつなげる大きな手助けになっている。また先祖の文化だけでなく、現代の私立学校や公立学校、様々なお店を訪れたり、現在のことまで見た。先祖の文化では、伊江島のガマや沖縄そばづくりを行った。その他良くない点はないですが、もう少し短いプログラムでも良かった。
- ・ このプログラムは最高でした。多くのアクティビティーがあった。
- ・ 素晴らしかったと思います。とても良かったです。皆さん、大変お疲れさまでした。このプログラムは成功したと思います。あめでございます。改善すべき点はありません、完璧でした。

Q2. プログラムを通して沖縄の文化を学んだり、人々との交流を深めることはできましたか？

- ・ もちろん。たくさんの人々に会って、色々習いました。若い人たちから少し年配の方からも沖縄のことをならいました。そして、色々な人と情報を交換しました。それでいつも連絡を取り合いたいです。
- ・ 沖縄の文化を学ぶ事、そしてプログラムで出会ったみなさんと話をしたことが、本当に楽しかった。
- ・ はい。とても楽しみました。出会ったみんなとずっとつながっていきます。
- ・ 沖縄の個性を維持していくためには、ウチナーグチを活性化していくことが重要
- ・ 沖縄の人々はとても温かくて、親切なので交流を深めるのは簡単でした。みんな英語ができなくても、言いたい事は全部通じました。

Q3. 印象に残っているプログラムは？

- ・ 伊江島のビーチを見た事
- ・ 私は全部印象に残っていますが、ひとつは伊江島に行くときです。伊江島の歴史と伝統を習いました。それで、タッチューも登って、すばらしかったです。そして、海も行ってたくさん写真取りました。最後、畑をしました。私は初めてだったので、とても楽しかったです。
- ・ 伊江島
- ・ 学校を訪問し、10代の若者と交流して、日本の同世代の人々を知ることができた。
- ・ 学校訪問と自然体験等の活動

Q4. あなたが期待したことはこのホームステイプログラムでどのくらい達成されましたか？

100/100% (5名)

Q5. その他事前に学んでおいた方がよかったと思うことはありますか？

- ・ 私は沖縄に住んだことがあるから、この質問は少し難しいです。でも新しい場所へ行く時にはいつも、広い視野を持つ

て行くべきだと思います。

- ないです。でも日本語を勉強した方がいいと思います。
- 日本語
- 沖縄に初めて来る人には、基本的な日本語の文法と、いくつかのルール、また参加者の国と異なった日本の法律を学ぶことを強く勧めます。
- 日本語と英語をもっと・・・

Q6. その他、県に対する要望があれば、書いてください。

- 私がまた沖縄に来たいから、また会いましょうね～。たぶん 10 月？そしてカラオケもしましょうね。本当にありがとうございました。とても楽しかったです。
- このような素晴らしい場所を訪れる機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。
- この交流プログラムを継続して欲しいと強く思います。次スカラシップがあるかはわかりませんが、多くの子弟たちが島を訪れることができるようになるためにも、とても良いと思います。
- スタッフの方々が好きです。
- アルゼンチンには沖縄県系人の家族が多いです。過半数はブエノスアイレス州に住んでいます、でも、他の州にも県系人がいるのに、こういうプログラムとか他のイベントについての情報が届かないことが時々あります。インターネットのお陰でこういう情報を得るのが少しずつ簡単になっているけれど、まだ何も知らない家族がいるということをお伝えしたいと思います。色々どうもありがとうございました。

Q1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください。

(良かった点、改善すべき点、派遣生に対して要望したいこと、その他)

- ・ 良かった点: 沖縄にゆかりのある海外の学生にとって沖縄の文化に触れる機会を与える事業に参加出来た事。
- ・ 改善点: 特に無いですが、ホストファミリーとの自由時間がもう少し欲しかったです。
- ・ オリエンテーションの時に日程を日を追って一日一日の流れを説明してほしかった。例えば、弁当を作っているのかどうか分からなかった。
- ・ 内容的にはとてもすばらしいと思いました。
- ・ ゲスト扱いしないことを心がけ過ぎてもらった。細かい指示がなくファミリーに任せてくれたので気負いなくできました。
- ・ 毎日特徴のある日程で留学生は充実した日々を過ごせたと思います。朝の集合場所が県庁という渋滞がある場所で時間に余裕を持って出かけなければならず、早朝暗いうちに起きて支度して大変だったと思います。せめて AM9 時ごろの集合でしたら無理なく行動出来たかと思います。そして、帰宅時間も遅かったのでゲストは随分疲れていたと思います。
- ・ あっという間でした。あれもしてやれば良かったと少し後悔があります。とても良い生徒でした。
- ・ ホストファミリーは 2 回目で、10 日間というのは長いかなと思っていましたが、実際には伊江島訪問の中休みもあってちょうど良かったです。(長くもなく)

Q2. 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか?

- ・ 実施期間に関しては、事業推進の経緯もあると思いますので、何とも言えませんが、出来れば初夏の頃が良かったかもしれません。
- ・ 真夏や真冬はできるだけ避けた方が良いと思います。
- ・ 休日がなく、案内する時間がなかったのが残念。
- ・ 寒かったり、雨だったり、最も暖かい沖縄らしい時期がいいのでは? どうでしょうか?
- ・ 旧正月はさけてほしかった。
- ・ よかったと思います。
- ・ 1 月~2 月というのは朝が暗く、寒く天候も不順なので 3 月以降がいい時期ではないでしょうか?

Q3. 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか?(感想を述べて下さい)

- ・ 今回お預かりした学生(エミリー)は、自分から積極的にコミュニケーションを取って来る子で、率先して文化に触れたいと動く子だと感じました。しかし、ホストファミリーには迷惑にならないように配慮していることも感じられる良い子でした。
- ・ イグナシオ君、さすがに 19 歳しっかりしていて生活態度も好感が持てました。
- ・ 大変良かった。手伝いも率先してやってくれた。孫たちから「エミリー」と呼ばれると一緒に遊んでくれ嬉しかった。昔からいたかの様にとけこんでいました(笑)
- ・ 大変礼儀正しく明るい素直な子でしたので、我々も楽しくお世話できました。本当にいい子でした。
- ・ おとなしい子でしたが、音楽を通して息子とも意気投合し楽しくやっていました。
- ・ まじめで学習意欲もあり、とてもおりこうさんでした。

ホストファミリーアンケート

- とても素直で優しい少年でした。子どもたちとも楽しく遊び、一日のできごとを話してくれたりと積極的に交流してくれました。息子が一人増えたようで楽しく過ごせました。

Q4. 滞在期間中はどこへ連れていきましたか？

- 国際通り(プリクラハウス、OPA)、那覇メインプレイス、おきなわワールド、首里城、小学校の学芸会、回転寿司
- 中城城跡、勝連城跡等連れて行きたかったのですが、日程がぎっしりで 2/1~2/5 までは時間がとれなかった。帰る日の午前中に首里城に連れていくつもりです。
- ビーチ、南部巡り、スーパーマーケット
- 美ら海水族館(イルカショー見学)、八重岳桜まつり、おきなわワールド(エイサー見学)、ショッピング、首里天楼別邸のランチ、テニス、三線練習、イノー散策(大渡海岸)
- 曾祖父の住んでいたところ、うるま市へ、楽器とアイポッドが欲しいと言っていたので、息子と息子の友人たちで国際通りの楽器屋さん、それと、息子のクラスが冲尚国際科なので 1 回授業参加とたまたまアメリカ基地の高校生との交流会(ダンスパーティー)もあったので、基地内にも行けてとても良かったと思います。
- 美ら海水族館、琉球王国村(鍾乳洞)
- 土曜日の休日を利用して海洋博公園へ行ってきました。日曜日は子どもの学芸会に行き、その後おばあちゃんの出身地である豊見城市高嶺→豊崎公園で野球をしたりしました。

Q5. 今回、平日は県のプログラムへ参加していましたが、ホストファミリーとして平日も完全に受入可能(平日もホストファミリーが参加者を案内すること)ですか？

平日 4~5 日なら可能(2 名)、土日 2 日間は可能(1 名)、10 日間可能(2 名)、平日 1 日可能(1 名)、
いいえ(1 名)

Q6. 次回以降についても、ホーステイ受入が可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録してもいいですか？

- 次回も宜しくお願いします。(5 名)
- 次回は女の子を預かってみたいです。息子が県外大学へ行くので。
- 十分な役割を果たせたのか(英語がしゃべれないので)わかりませんが、いい経験になりました。

Q7. その他、県に対する要望があれば、書いてください。

- 特にありません。(今回のように細目に連絡が取れるのであれば問題ありません。)
- 海外県人子弟ふるさと訪問はとても良い企画だと思います。
- ゲスト案内したい場所は必ずといっていい程入場料・体験料(材料代)が発生しますが、ゲストに出させるのはちょっと心苦しく思います。(本人の希望の場所であれば別ですが、こちらから計画した場合のことです)公共の施設に入る時のフリーパスとか手段があれば色々な所へ案内できると思います。※個人ではなかなか公共の施設に入ることができないので、今回の日程はとてもすばらしいと思いました。
- ホームステイ中におぼえたい日本語のテキスト等があれば一緒に勉強したいです。

お世話になったみなさま

受入期間中には以下の様々な団体、学校関係のみなさまにも大変お世話になりました。参加者受入のために、様々なプログラムや学習を準備して頂きありがとうございました。みなさまのご協力とご理解に心より感謝申し上げます。みなさまとの実り多き時間が、参加者の沖縄への理解と絆を深める貴重な機会ともなりました。この場を借りて感謝申し上げます。

～お世話になった団体・学校関係者のみなさま～

- ・ 沖縄県立北中城高等学校
訪問前の出前授業(沖縄移民)と、参加者の体験授業と交流プログラムを実施して頂きました。
- ・ 沖縄県立与勝高校・与勝緑が丘中学校
移民の事前学習と、体験授業と特別授業を実施して頂きました。また、お昼休みには国際理解同好会のメンバーとの交流会へも参加させて頂きました。
- ・ 私立沖縄尚学高等学校
移民の事前学習と、訪問当日には学校案内と特別授業を実施、また国際科コースとのランチと交流プログラムにも参加させて頂きました。
- ・ 沖縄語普及協議会
うちなーぐち講座の講師として、参加者へうちなーぐちの言葉やあいさつを教えて頂きました。
- ・ エコビレッジ・マキヨ屋嘉田 仲西美佐子さん、エコショップえころん 宇地原睦恵さん
エコビレッジ・マキヨ屋嘉田にて、沖縄そば作り体験と海歩きの案内をして頂き、沖縄の昔ながらの自然素材を活かしたものづくりや遊びを教えてくださいました。
- ・ (特活)マングローブEEクラブ
うるま市洲崎のマングローブテラスにて、環境学習をして下さり、マングローブの植樹活動にも参加させて頂きました。

～お世話になった企業のみなさま～

- ・ 伊江島観光協会
伊江島での民泊体験を実施して頂きました。民泊は知念スーシーさん一家に受入れて頂き、ストラップづくりや島らっきょうの収穫体験、伊江島案内をしてくださいました。
- ・ タイフーンfm
ラジオ番組「ヒトワク」に参加者全員を出演させて頂き、プログラムやホームステイの紹介、第5回世界のウチナーンチュ大会について広報のご協力をして頂きました。



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと



オリエンテーション



初対面



ウチナンチュ大会事務局



参事監と一緒に



公設市場



北中城高校



三線の練習



クラスの子たちと



うちなぐち講座



伊江島タッチュー



お花畑で



島らっきょうの収穫



伊江島のみなさんと



強風の中で



沖縄そばづくり体験



海からの帰り道



沖縄そばづくり体験



与勝緑が丘中学校



与勝高校の生徒たちと



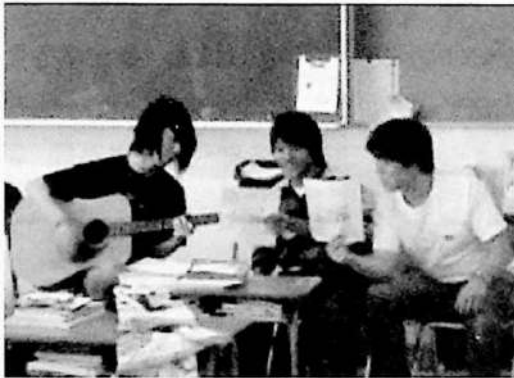
マングローブ学習会



マングローブ植樹



沖縄尚学高等学校



授業で歌を披露したよ



ラジオに出演！



お見送り



空港にて



ホストファミリーと



ホストファミリーと

今年度は、2回の受入事業を実施することとなった。この度の2回目の受入事業は、事業の発展もさることながら、第5回世界のウチナーンチュ大会のプレ・イヤー イベントとして実施された。

よって、これまでの実施と異なり参加者には、県民の大会への気運を高めてもらうため、3カ所の学校訪問時等には自身の先祖や彼らが移民した経緯などについて、発表してもらった。

また、ホストファミリーの受入地域も南は糸満市から北は沖縄市までとこれまで以上に広げた。

さらに前2回の実施は、北米からの参加者のみであったが、今回は、北米から2名と南米から3名が参加した。

受入ホストファミリー7世帯、参加者5名という事業実施以来、最も多い人数となった。より多くの県民へ海外県系人社会を身近に感じていただき、より多くの海外県系人子弟が母県・沖縄に対する理解と絆を深めたと思う。

移動時間の長さや通訳の問題などまだ解決する課題はあるが、更なる今後の発展のため、試行錯誤を重ねひとつひとつ解決していければと思う。

最後になりますが、快くホームステイを引き受けていただきましたホストファミリーの皆様をはじめ、参加者を見守ってくれた関係者の皆様に対し、この場を借りて、感謝を申しあげたいと思います。ありがとうございました。

(沖縄県観光商工部 交流推進課 宮城康一郎)

今回は、第5回世界のウチナーンチュ大会のプレ・イベントとしての実施となりました。アメリカから2名、アルゼンチンから3名の海外県系人子弟がプログラムに参加しました。今回は、異なった2カ国の若者が参加したことに加え、下は13歳から上は26歳と年齢差も大きかったため、多文化を体感するだけでなく世代間での交流も印象的なものとなりました。また、今回は日本語を話すことのできる参加者もいたことが他のメンバーへ良い影響となり、全体的に日本語習得に取り組む姿を多々見ることができました。

今回の受入プログラムでは同世代の交流と移民学習を中心に実施しました。学校訪問では、先祖のルーツや移民の話、参加者の出身地の紹介などを織り交ぜたプレゼンテーションを参加者一人一人が行い、沖縄移民を考える貴重な機会になったと思います。交流会では生徒たちとの仲を一層深め、お互いの事を知ること、多文化を理解することの大切や楽しさを肌で感じる事ができたと思います。また、今回はうちなーぐち講座の実施や、沖縄の自然素材を活かした昔ながらの沖縄そばづくり、沖縄の住宅、文化、伝統芸能について学習する機会もあり、彼らの先祖が暮らしていた沖縄に触れ、体験する機会を作ることができました。

ホームステイでは7家族の方々にご協力を頂き、参加者を家族のように温かく迎え入れてくれました。それぞれのステイ先での出来事や家族のことを楽しそうに話す姿を見て、新しい家族との充実した時間を過ごしているのだと感じました。ホストファミリーの皆様も参加者のために色々計画をして頂き、心より感謝申し上げます。

今回のプログラムでは、移民の歴史から先祖たちの沖縄の暮らし、そして現在の沖縄までを見ることができました。そして、海外へ渡った沖縄の人々の体験や思いが、子弟である彼らと一緒に沖縄へ届けられたような気持ちでいます。それと同時に、今度は彼らが新たな沖縄とのつながりを海外県人会へと持ち帰っていきます。今年は第5回世界のウチナーンチュ大会も開催されます。今回の参加者5名が沖縄で築いたつながりが、今後どのように発展していくのか、大きな期待を持ち、その手助けをしていきたいと強く思います。

最後になりましたが、本事業の実施にあたりご協力頂いたホストファミリーの皆さま、団体、教育機関の皆様へ、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(沖縄 NGO センター 岸本佳子)

平成 22(2010)年度沖縄県海外県系人ホームステイ受け入れ事業冬期
(「第 5 回世界のウチナンチュ大会プレ・イヤー イベント」ヴァージョン)報告書

発行者 沖縄県観光商工部交流推進課

住 所 〒900-8570 那覇市泉崎 1 丁目 2 番 2 号

電 話 098(866)2479

FAX 098(866)2765

Email アドレス aa050400@pref.okinawa.jp

<http://www.pref.okinawa.jp/index.html>

製 作 特定非営利活動法人 沖縄 NGO センター

住 所 〒901-2211 宜野湾市宜野湾 3-23-52 1F

電 話 098(892)4758

FAX 098(892)9908

Email アドレス onc@oki-ngo.or.tv

<http://www.oki-ngo.or.tv>